

工事成績採点の考査項目別運用表

【記入方法】 該当する項目の「・」に○マークを記入する。

（検 査 職 員）

考査項目	細 別	a	b	c	d	e
2.施工状況	Ⅰ.施工管理	施工管理が優れている	施工管理がやや優れている	他の事項に該当しない場合	施工管理がやや不備である	施工管理が不備である
		<div>〔□ 評価対象項目〕</div> <div>□建設工事請負基準約款第19条第1項(1)から(5)に基づく設計図書の照査を確認できる。<ul style="list-style-type: none">・林業土木工事標準仕様書（その1）第1編共通編第1章総則に記された設計図書の照査等・工事測量が実施され、結果をその不都合に関わらず、書面で監督員に提出し確認を求めている。（文書で整理されている。）</div> <div>□施工計画書が工事着手前に提出され、その記載内容と現場施工方法が一致していることが確認できる。<ul style="list-style-type: none">・施工計画書に所定の項目が記載され、契約後概ね1ヶ月以内に提出されている。・設計図書の条件明示を確実に反映した施工計画書になっている。・施工計画が現場状況（地形、地質、周辺環境、交通量等）を反映した具体的な内容となっている。・安全対策が具体的・的確に記載され、実施されている。・施工計画書に変更が生じた場合、当該工事の着手前に監督員に変更計画書が提出されている。</div> <div>□現場代理人、作業主任者等の作業分担と責任の範囲が書面で確認できる。<ul style="list-style-type: none">・ＫＹ日誌で現場代理人の常駐状況が確認できるとともに、朝礼時において作業体制を的確に把握できる。・施工計画書の現場組織表で、現場責任者が明記されている。・施工計画書の安全管理組織表で、下請けも含め安全衛生責任者、作業主任者等が明記されている。</div> <div>□下請に関する手続きが適切に行われ施工されていることが確認できる。<ul style="list-style-type: none">・施工体制台帳及び施工体系図が作成され、工事現場に備えらるとともに、監督員に提出されている。・施工体制台帳の記載事項は適正に記入されており、添付が必要な書類も全て提出されている。・施工体系図は、工事関係者が見やすい場所及び公衆が見やすい場所に掲示されている。・施工体制台帳及び施工体系図に変更が生じた場合、その都度、監督員に提出されている。・下請負人が再下請を行う場合に再下請通知書を元請負人に提出する旨の掲示を行っている。・下請に対する引き取り（完成）検査を実施していることが確認できる。・下請に対する当初契約、変更契約が適切になされていることが確認できる。</div> <div>□立会確認の手続きが事前になされていることが確認できる。<ul style="list-style-type: none">・立会確認が適切に実施されたことが、書面で確認できる。・段階確認について、林業土木工事監督要領及び林業土木工事監督技術基準により、事前に段階確認願（工種、細別、確認時期）が書面で監督員に提出されている。・段階確認が適切に実施され、工程表と整合する。・臨時検査が適切に実施され、工程表と整合する。</div> <div>□品質確保のための対策など施工に関する独自の工夫が見られる。<ul style="list-style-type: none">・材料（質）のチェック、材料の保管、事前の対応、品質を保つための現場条件、品質を保つための方策の徹底、事後の対応、出来形に評価される品質の各々の時点における工夫が書面で確認できる。 （「別紙6-1,6-2工事特性・創意工夫・社会性等に関する実施状況」の提出が必要。）</div>				<ul style="list-style-type: none">・設計図書と適合しない箇所があり、文章により手直し指示を行った。・契約図書に基づき施工上の義務につき、検査職員より指示を行った。 <p>上記1項目該当事項があれば…………… d 2項目以上該当すれば…………… e</p>

〔記入方法〕 該当する項目の「・」に○マークを記入する。

(検査職員)

2.施工状況	I.施工管理	<p>□工事の関係書類を不足なく簡潔に整理していることが確認できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コリンズ登録が適正に行われている。 ・工事記録等（提示資料は現場で使用したものそのままを提示すれば良いことから対象外）が目的別にインデックス等でわかりやすく整備されて、その整備資料全体が分かるように、総括表でまとまっている。 ・工事書類簡素化の趣旨に則り、必要とされる書類が簡潔にまとめられている。 （提出書類と提示書類がきちんと区別整理され、工事書類作成マニュアル記載資料以外の提出がない。） ・法的な手続き等が必要なものに提出の漏れがない。（休日・祝日作業、道路使用、港湾区域の使用、労働基準監督署への提出書類など）整備資料でチェックする。 ・キャリブレーションの必要な機器は、その成績結果表が添付されている。 ・計算式等で算出根拠を説明するものがある場合、図表等を利用しわかりやすく整理されている。 （例、薬剤の注入量、該当が無い場合は項目削除） ・写真帳の撮影箇所に略図等が添付され、把握しやすく見やすく整理されている。 （電子納品の場合は、写真帳の添付図または写真内の黒板等の略図、及び写真情報の記載により、該当位置・部分及び状況が明確に確認できること。） ・説明のスムーズさから資料の整理、把握の良さがうかがえる。 <p>□建設廃棄物及びリサイクルへの取り組みが適切にされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニフェストが整理され、所要の数量と整合する。 ・施工計画書に再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画書が当初から添付されている。 ・再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画書（実施書）が添付されており、数量が確認できる。 ・建設副産物の最終処分地又は中間処理地が当初から計画されている。 ・産業廃棄物の処分について、委託が収集運搬業許可及び処分業許可を受けた会社と契約されている。 ・速やかに「再資源化等の完了報告書」が提出されている。 <p>□建退共の証紙が適切に配布され管理されている（中小企業退職金共済制度加入者は、これに読み替える）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建退共制度等に参加している。 ・建設業退職者共済証紙購入状況報告書を工事完成時に提出している。 ・建設業退職金共済制度適用事業主工事現場であることが表示されている。 <p>□社内の管理基準等が作成され管理している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の管理基準がない工種について、独自の管理基準を設定し管理していることが確認できる。 ・社内管理基準（目標）を設定するとともに、その運用方法（目標をオーバーした場合の検討体制や検討プロセス等の具体的な対処方法など）を定め、管理されている。 ・その管理基準により社内検査（書類検査）が完了していることが書面で確認できる。 ・その管理基準により社内検査（現場検査）が完了していることが書面で確認できる。 	
--------	--------	---	--

〔記入方法〕 該当する項目の「・」に○マークを記入する。

(検査職員)

2.施工状況	I.施工管理	<input type="checkbox"/> 品質証明体制が確立され、品質証明員による関係書類、出来形、品質等の確認を工事全般にわたって行っていることが確認できる。（3億円以上の工事及び振興部長等が必要と認める工事） <ul style="list-style-type: none"> 品質証明員届が提出されている。 品質証明員の資格は、一級土木施工管理技士又は技術士である。 品質証明員の現場経験が10年以上である。 適切な時期に現場の施工実態の確認を実施している。 検査前に工事関係書類等の事前確認を実施している。 品質証明書の書式が指定されたもので、証明者の押印及び受注者の社印がある。 <input type="checkbox"/> 工事材料の品質を確保していることが確認できる。 <ul style="list-style-type: none"> 工事材料の品質保証等が適切に整理されている。 JISマーク表示品については、JISマーク表示状態の確認ができる。 工事材料の品質に影響が無いよう保管している。 指定材料について、材料確認願いが事前に提出されている。 <input type="checkbox"/> その他（ ）	
		<div>【評価方法】</div> <div>①チェック項目「・」のうち、評価対象としない項目は削除する。評価対象項目「□」も同様に削除する。</div> <div>②評価対象項目の下欄のチェック項目「・」が複数の場合、○マーク数がチェック項目総数の2／3以上であれば□に「レ点」を記入する。⇒（該当していることを明示）</div> <div>評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目（ ）</div>	
		<div>●判断基準</div> <div>評価値が90%以上…………… a</div> <div>評価値が80%以上～90%未満…………… b</div> <div>評価値が60%以上～80%未満…………… c</div> <div>評価値が60%未満…………… d</div> <div>※評価対象項目数が2項目以下の場合は、c評価とする。</div>	

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

(検査職員)

調査項目	a	a'	b	b'	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	・出来形の測定が、必要な測定項目において所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内で、下記の「評価対象項目」4項目以上が該当する。	・出来形の測定が、必要な測定項目において所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内で、下記の「評価対象項目」3項目以上が該当する。	・出来形の測定が、必要な測定項目において所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね80%以内で、下記の「評価対象項目」3項目以上が該当する。	・出来形の測定が、必要な測定項目において所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね80%以内で、下記の「評価対象項目」2項目以上が該当する。	・出来形の測定が、必要な測定項目において所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、a～b'に該当しない。	・出来形が測定項目、測定基準及び規格値を満足せず規格値を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	
I 出 来 形	<p>【□評価対象項目】</p> <p>□出来形管理図及び出来形管理表に創意工夫がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 測定表に出来形寸法を測定した箇所の略図等が示されている。 管理表による傾向、課題等が一目で判断できる。 <p>□出来形測定において不可視部分が写真で的確に判断できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 不可視部分の出来形寸法が確認できる写真が撮影されている（監督員等が臨場した箇所を除く）。 完成写真等に、不可視部分の参考写真が添付されている。 <p>（竣工写真では工事内容が分かりにくい場合、不可視部分の参考写真が添付されている。例：海岸（港堤）工事。該当がない場合削除）</p> <p>□社内の管理基準等が作成され、管理している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 県の管理基準がない工種について、独自の管理基準を設定し管理していることが確認できる。 社内管理基準（目標）を設定するとともに、その運用方法（目標をオーバーした場合の検討体制や検討プロセス等の具体的な対処方法など）を定め、管理されている。 その管理基準により社内検査（書類検査）が完了していることが書面で確認できる。 その管理基準により社内検査（現場検査）が完了していることが書面で確認できる。 <p>□写真撮影要領の撮影項目、時期、頻度を満足している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 県の写真管理基準がない工種は、社内管理の撮影工種、項目、頻度、箇所などについて、当該工事に即して施工計画書に具体的記述が補足されている。 写真管理基準（案）の撮影頻度（時期）に基づき、撮影していることが確認できる。 工事写真帳は写真管理基準（案）に基づき作成されている。 起終点等の表示が写真上で明示され、着手前と完成時が比較できる。 <p>□その他（ ）</p>					<p>・出来形の測定方法または測定値が不適切であったため、監督員が文書で改善指示を行い改善された。</p> <p>……d</p>	<p>・出来形の測定方法または測定値が不適切であったため、検査職員が文書で改善指示を行い改善された。</p> <p>……e</p>
	<p>【評価方法】</p> <p>①評価対象項目の下欄のチェック項目「・」が複数の場合、○マーク数がチェック項目総数の2／3以上であれば□に「レ点」を記入する。⇒（該当していることを明示）</p> <p>②「ばらつき」が規格値の概ね（ ）%以内で、「評価対象項目」の（ ）項目以上が該当。⇒（ ）評価</p> <p>③出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状寸法である。</p> <p>④出来形管理とは「林業土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づく形状寸法を確保する管理体系である。</p> <p>⑤出来形管理とは「林業土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づく形状寸法を確保する管理体系である。</p>						

品質一覧表

	ページ	項目	細項目		ページ	項目	細項目
Ⅱ 品質 1 溪間工事	別紙-3④	治山ダム工	【共通】【コンクリート】【鋼製枠・コンクリート枠等】 【異形ブロック】【鋼製】	Ⅱ 品質 4 林道工事	別紙-3⑭	土工 路床・路盤工 土留等	【共通】【切土】【盛土】【路床・路盤工】 【アスファルト舗装】【区画線】 【コンクリート路面工】【排水施設工（横断工・側溝等）】 【交通安全施設工】 【土留（大型フトン籠・フトン籠等）】【土留（パネル柵等）】
	別紙-3⑤				別紙-3⑮		
	別紙-3⑥	護岸工 流路工	【共通】【コンクリート】 【鋼製枠・コンクリート枠・大型フトン籠等】【木製枠】 【コンクリートブロック】【フトン籠・蛇籠】		別紙-3⑯	擁壁工等	【共通】【コンクリート】【L型プレキャスト】 【コンクリートブロック】【補強土工】
	別紙-3⑦				別紙-3⑰	コンクリート橋工事 （PC及びRCを対象）	【共通】【製作関係】【架設関係】
Ⅱ 品質 2 山腹工事	別紙-3⑧	土留工	【共通】【コンクリート】 【鋼製枠・コンクリート枠・大型フトン籠等】【木製枠】 【コンクリートブロック】【フトン籠】	Ⅱ 品質 5 法面工事	別紙-3⑱	鋼橋工事	【工場製作関係】【架設関係】
	別紙-3⑨				別紙-3⑲	法面保護工	【共通】【種子吹付工・客土吹付工・厚層基材吹付工関係】 【コンクリート又はモルタル吹付工関係】 【現場打ち法枠工関係】【アンカー工】
	別紙-3⑩	水路工 暗渠工	【共通】【水路工】【暗渠工】	Ⅱ 品質 6 海岸工事	別紙-3⑳	防潮工 （緩傾斜堤・直立堤 コンクリートブロック 堤）	【共通】【コンクリートブロック・異形ブロック】 【コンクリート直立堤】【中詰・被覆などの基礎工】
	別紙-3⑪	法切工 伏工等	【共通】【法切工】【植生シート・種子付むしろ 【柵工（木製パネル等）	Ⅱ 品質 7 なだれ防止 林造成工事	別紙-3㉑	なだれ予防柵工 階段工	【共通】【柵工】【階段工】
	別紙-3⑫	落石防止工	【共通】【落石予防工】【落石防護工】				
Ⅱ 品質 3 地すべり防 止工事	別紙-3⑬	集水井工 杭工 暗渠工	【共通】【鋼管杭】【横孔・集水・排水ボーリング】	Ⅱ 品質 8 その他工事	別紙-3㉒	その他工事	

【検査員評価項目について】

(品質)

評価は、主たる工種で評価します。主たる工種は、概ね60%以上とします。

従って、主たる工種の割合が、40%以上60%未満の場合は、2工種で、概ね40%未満の場合は3工種で評価することができます。

工種は、最大3工種で、2工種の算定は次のようになります。

(例) 2工種の場合、(1工種目のA/B+2項種目のC/D)=(A+C)/(B+D)とし、その結果を評価値とします。

(出来ばえ)

各工種の出来ばえ評価項目が似通っているので、多工種の場合でも、主たる工種で評価します。

工事成績採点の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

(検査職員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3 出来形 及び 出来ばえ		☆ 品質関係の試験結果のばらつきと、評価値から判断する（判断基準参照） （関連基準、林業土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験） ※ばらつきの判定基準は別紙－４参照 ☆ 品質が試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
Ⅱ 品 質 1 溪 間 工 事	治山ダム工	【評価対象項目】 【共通】 ・地山となじみ良く施工されている。 ・基礎地盤が確認され、適切に基盤面が仕上げられていることが確認できる。 ・基礎地盤の清掃、湧水処理等が適切に実施されていることが確認できる。 ・掘削法面勾配が、正確に施工されていることが確認できる。 ・袖部上部の切取面に崩れなどが無く安定している。また、緑化を図った場合は適切に施工されている。 ・袖部埋め戻し部分が地山との取り合いが良く、崩れやクラックが無い。 ・上流部埋戻しが袖まわり等が起きないように適切に処理されている。 ・材料の品質規格証明書が整備されている。 ・二次製品について現場代理人などの責任ある者が、製品を確認し受け取り、損傷のないもので施工されている。 ・土留め等の仮設が設計図書に基づき適切に施工・管理されていることが確認できる。 【コンクリート】 ・コンクリート打ち込み時に必要な供試体採取し、強度、スランプ・空気量等が確認できる。 ・施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打ちこみ時の投入高さ、パイプレータによる締固、養生方法等、適切に行っていることが確認できる。（寒中及び暑中コンクリート等を含む） ・型枠、支保工の組立が適正で、コンクリート打ち込み後、取り外し時期がコンクリート強度等で適正に管理されている。 ・コンクリートの打ち直しや補修の痕跡がない。 ・コンクリート打ち込み時に雨水やわき水が適切に処理されていることが確認できる。 ・施工の打ち継ぎ目では、レタンス処理等が適切に行われていることが確認できる。 ・打ち継ぎ処理が設計図書に基づき適切に行われていることが確認できる。 ・型枠の目違いがなく、型枠の破片等がコンクリート表面に無く、丁寧な仕上がり確認できる。 ・コンクリート打ち込みに際し、初期強度の確認が適切に行われている。 ・目地材の表面露出部分が均一に出るように施工されている。 ・目地材、止水板等はよじれなく直線的に仕上がっている。 ・リフトスケジュールが作成され、コンクリート打ち込み時期・養生が適切に行われている。 ・間詰コンクリートが地山に密着して施工され、表面の状態も良好である。 ・コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。 （高炉Ｂ種、Ｃ種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する） ・コンクリート打ち込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。 ・有害なクラックが無い。 ・鋼製スリットの製品に損傷、キズが無いことが確認できる。 ・鋼製スリットの規格、品質が適正であり証明書が整備されている。 ・鋼製スリットの保管、吊り込み等に十分注意を払い適切に施工されている。 ・スリットが規定の水平高さに取り付けられており、ボルトで十分締め付けられている。					・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば…… d	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が文書で補修（手直し）指示を行った。 上記該当あれば…… e

工事成績採点の考查項目別運用表

〔記入方法〕該当する項目の・に○マークを記入する。

(検 査 職 員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e																															
3 出来形 及び 出来ばえ	治山ダム工	☆ 品質関係の試験結果のばらつきと、評価値から判断する（判断基準参照） 〔関連基準、林業土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験〕 ※ばらつきの判定基準は別紙－4 参照 ☆ 品質が試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。																															
		【鋼製枠・コンクリート枠等】 ・各枠が水平に所定の位置に組み立てられている。 ・枠の組み方が適正で、変形、法狂い無く立ち上がっている。 ・水平・垂直方向の接続が適切で法線どおり狂いなく設置されている。 ・詰石作業が枠材に衝撃を与えないよう注意を払って行われている。 ・詰石が隙間なく適切に施工されている。 ・詰石は仕様書に定められた大きさのものが使用されている。 ・部材を固定・連結するボルト等にゆるみが無い。 【異形ブロック】 ・部材の連結、またはかみ合わせが適切である。 ・設置間隔、高さ等が設計図書どおりに施工されている。 ・端部における地山とのすりつけが適切である。 ・コンクリートブロックの転置、仮置に際し、強度確認を行っている。 ・設置されたブロックに破損や補修痕の無いことが確認できる。 ・現場で製作のものは、型枠搬入時に仮組等を実施し、寸法・歪み・傷等をチェックしている。 ・異形ブロック製作で豆板、かけ、型枠の目違いが無い。 ・仮置き時に転倒、崩壊の防止が図られていた。 ・背後土砂の流失がないことが確認できる。 【鋼製】 ・鋼材の員数照合がミルシート等（現場照合を含む）で確認されている。 ・ボルトの締付確認が実施され、適切に記録が保管されている。 ・ボルトの締付機、測定機のキャリブレーションを実施している。 ・ボルトの品質がミルシート等で確認できる。 ・設置した状態で塗装面が損傷していない。 ・鋼材の保管時に変形及び塗装面に損傷を与えないよう適切に管理されている。 ・基礎部、袖部コンクリートは必要な供試体を採取し、強度、スランプ・空気量等が確認され、強度管理等が適正に行われている。 ①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%) 計算の値（評価値）で評価す ③評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④なお、削除後の評価対象項目数が3 項目以下の場合はC 評価とする。					・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば……d	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が文書で補修（手直し）指示を行った。 上記該当あれば……e																															
Ⅱ 品 質 Ⅰ 溪 間 工 事		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">ばらつきで判断可能</th><th rowspan="2">ばらつき で判断不 可能</th></tr><tr><th>ばらつきが小さい 50%以下</th><th>ばらついている 80%以下</th><th>ばらつきが大きい 80%超え</th></tr><tr><td rowspan="4">評 価 値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>C</td><td>C</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>C</td><td>C</td><td>C</td></tr></table>							ばらつきで判断可能			ばらつき で判断不 可能	ばらつきが小さい 50%以下	ばらついている 80%以下	ばらつきが大きい 80%超え	評 価 値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上75%未満	b	b'	C	C	60%未満	b'	C	C	C			
		ばらつきで判断可能			ばらつき で判断不 可能																																		
		ばらつきが小さい 50%以下	ばらついている 80%以下	ばらつきが大きい 80%超え																																			
評 価 値	90%以上	a	a'	b	b																																		
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'																																		
	60%以上75%未満	b	b'	C	C																																		
	60%未満	b'	C	C	C																																		
注 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。																																							

工事成績採点の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

(検査職員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3 出来形 及び 出来ばえ		☆ 品質関係の試験結果のばらつきと、評価値から判断する（判断基準参照） （関連基準、林業土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験） ※ばらつきの判定基準は別紙－４参照 ☆ 品質が試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
Ⅱ 品 質 1 溪 間 工 事	護岸工 流路工	【評価対象項目】 【共通】 ・施工基面が平滑に仕上がり、所定の強度が確保されている（出来上がりが波打っていない）。 ・二次製品の受け取りを現場代理人などの責任ある者が、製品を確認し受け取り、損傷のないもので施工されている。 ・護岸工の端部や曲線部の処理・強度・水密性が適切である。 ・遮水シートが上流側が上になるように所定の幅で重ね合わせられ、端部処理が適切である。 ・植生工の施工状態が良好で、施工後の養生も適切である。 ・法勾配、裏込め材の厚さの確保のため細心の注意を払っている。 ・材料の品質規格証明書等が整備されている。 ・製品の品質管理が適切に行われ、納入月日が確認できる。 ・基礎工において、掘り過ぎがなく施工していることが確認できる。 ・施工にあたって、床掘箇所湧水及び滞水等は、排除して施工していることが確認できる。 【コンクリート】 ・コンクリート打ち込み時に必要な供試体採取し、強度、スランプ・空気量等が確認できる。 ・施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打ち込み時の投入高さ、バイブレーターによる締固、養生方法等、適切に行っていることが確認できる。（寒中及び暑中コンクリート等を含む） ・型枠、支保工の組立が適正で、コンクリート打ち込み後、取り外し時期がコンクリート強度等で適正に管理されている。 ・コンクリートの打ち直しや補修の痕跡が無い。 ・コンクリート打ち込み時に雨水やわき水が適切に処理されていることが確認できる。 ・施工の打ち継ぎ目では、レイタンス処理等が適切に行われていることが確認できる。 ・型枠の目違いがなく、型枠の破片等がコンクリート表面になく、丁寧な仕上がり確認できる。 ・コンクリート打ち込みに際し、初期強度の確認が適切に行なわれている。 ・打ち継ぎ目にモルタル施工が実施されていることが確認できる。 ・目地材の表面露出部分が均一に出るように施工されている。 ・目地材はよじれなく直線的に仕上がっている。 ・リフトスケジュールが作成され、コンクリート打ち込み時期・養生が適切に行われている。 ・コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。 （高炉Ｂ種、Ｃ種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する） ・コンクリート打ち込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。 ・有害なクラックが無い。 【鋼製枠・コンクリート枠・大型フトン籠等】 ・各枠が水平に所定の位置に組み立てられている。 ・枠の組み方が適正で、変形、法狂い無く立ち上がっている。 ・水平・垂直方向の接続が適切で法線どおり狂いなく設置されている。 ・詰石作業が枠材に衝撃を与えないよう注意を払って行われている。 ・詰石が隙間なく適切に施工されている。 ・詰石は仕様書に定められた大きさのものが使用されている。 ・部材を固定・連結するボルト等にゆるみが無い。					・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば……d	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が文書で補修（手直し）指示を行った。 上記該当あれば……e

工事成績採点の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

(検査職員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e																												
3 出来形 及び 出来ばえ	護岸工 流路工	☆ 品質関係の試験結果のばらつきと、評価値から判断する（判断基準参照） {関連基準、林業土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験} ※ばらつきの判定基準は別紙－4参照 ☆ 品質が試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。																												
		<p>【木製枠】</p> <ul style="list-style-type: none">産地証明等で県産材であることが確認できる。各枠が所定の位置に適切に組み立てられている。枠の組み方が適正で、変形、法狂い無く立ち上がっている。水平・垂直方向の接続が適切で法線どおり狂いなく設置されている。詰石作業が枠材に衝撃を与えないよう注意を払って行われている。詰石が空隙なく適切に施工されている。詰石が仕様書に定められた大きさを施工されている。 <p>【コンクリートブロック】</p> <ul style="list-style-type: none">胴込コンクリート、裏込材の充填が十分で空隙が生じていない。基礎コンクリート及び天端等の調整コンクリートにクラック等の欠陥が無い。材料の連結、またはかみ合わせが適切である。端部における地山とのすりつけが適切である。 <p>【フトン籠、蛇籠】</p> <ul style="list-style-type: none">各籠が所定の位置に適切に設置されている。水平・垂直方向の接続が適切で法線どおり狂いなく設置されている。詰石が仕様書に定められた大きさを施工されている。詰石により籠が変形しておらず、口締めの閉じ鉄筋は良くねじれ強く締められている。 <p>①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値（評価値）で評価す ③評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合はC評価とする。</p> <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">ばらつきで判断可能</th><th rowspan="2">ばらつき で判断不 可能</th></tr><tr><th>ばらつきが小さい 50%以下</th><th>ばらついている 80%以下</th><th>ばらつきが大きい 80%超え</th></tr><tr><td rowspan="4">評 価 値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>C</td><td>C</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>C</td><td>C</td><td>C</td></tr></table> <p>注 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。</p>							ばらつきで判断可能			ばらつき で判断不 可能	ばらつきが小さい 50%以下	ばらついている 80%以下	ばらつきが大きい 80%超え	評 価 値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上75%未満	b	b'	C	C	60%未満	b'	C	C	C
		ばらつきで判断可能			ばらつき で判断不 可能																															
		ばらつきが小さい 50%以下	ばらついている 80%以下	ばらつきが大きい 80%超え																																
評 価 値	90%以上	a	a'	b	b																															
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'																															
	60%以上75%未満	b	b'	C	C																															
	60%未満	b'	C	C	C																															
Ⅱ 品 質 2 山 腹 工 事																																				

工事成績採点の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

(検 査 職 員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3 出来形 及び 出来ばえ		☆ 品質関係の試験結果のばらつきと、評価値から判断する（判断基準参照） （関連基準、林業土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験） ※ばらつきの判定基準は別紙－４参照 ☆ 品質が試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
		【評価対象項目】 【共通】 ・基礎地盤が確認され、適切に基盤面が仕上げられている。または、基礎栗石等が適切に施工されていることが確認できる。 ・掘削時に湧水処理等が適切に実施されていることが確認できる。 ・掘削法面勾配が、正確に施工されていることが確認できる。 ・切取面に崩れなどが無く安定している。また、緑化を図った場合は適切に施工されている。 ・上部埋戻しが十分締め固め行われており、天端に確実にすり付けられ吸出しを受けていない。 ・吸出防止材が所定の幅で重ねられ、適切に取付けられていることが確認できる。 ・材料の品質規格証明書が整備されている。 ・二次製品について現場代理人などの責任ある者が、製品を確認し受け取り、損傷の無いもので施工されている。 ・土留め等の仮設が設計図書に基づき適切に施工・管理されていることが確認できる。 ・植生工の施工状態が良好で、施工後の養生も適切である。 ・製品の品質管理が適切に行われ、納入月日が確認できる。					・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば…… d	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が文書で補修（手直し）指示を行った。 上記該当あれば…… e
Ⅱ 品 質 2 山 腹 工 事	土留工	【コンクリート】 ・コンクリート打ち込み時に必要な供試体采取し、強度、スランプ・空気量等が確認できる。 ・施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打ち込み時の投入高さ、バイブレーターによる締固、養生方法等、適切に行っていることが確認できる。（寒中及び暑中コンクリート等を含む） ・型枠、支保工の組立が適正で、コンクリート打ち込み後、取り外し時期がコンクリート強度等で適正に管理されている。 ・コンクリートの打ち直しや補修の痕跡が無い。 ・コンクリート打ち込み時に雨水やわき水が適切に処理されていることが確認できる。 ・施工の打ち継ぎ目では、レイタンス処理等が適切に行われていることが確認できる。 ・型枠の目違いがなく、型枠の破片等がコンクリート表面になく、丁寧な仕上りが確認できる。 ・コンクリート打ち込みにおいて、初期強度管理に細心の配慮がうかがえる。 ・打ち継ぎ目にモルタル施工が実施されていることが確認できる。 ・目地材の表面露出部分が均一に出るように施工されている。 ・目地材はよじれなく直線的に仕上がっている。 ・リフトスケジュールが作成され、コンクリート打ち込み時期・養生が適切に行われている。 ・コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。 （高炉Ｂ種、Ｃ種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する。） ・コンクリート打ち込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。 ・有害なクラックが無い。						

工事成績採点の考査項目別運用表

〔記入方法〕該当する項目の・に○マークを記入する。

(検査職員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3 出来形 及び 出来ばえ	Ⅱ 品 質 2 山 腹 工 事	☆ 品質関係の試験結果のばらつきと、評価値から判断する（判断基準参照） （関連基準、林業土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験） ※ばらつきの判定基準は別紙－４参照 ☆ 品質が試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
		【鋼製枠・コンクリート枠・大型フトン籠等】 ・各枠が水平に所定の位置に組み立てられている。 ・枠の組み方が適正で、変形、法狂い無く立ち上がっている。 ・水平・垂直方向の接続が適切で法線どおり狂いなく設置されている。 ・詰石作業が枠材に衝撃を与えないよう注意を払って行われている。 ・詰石が隙間なく適切に施工されている。 ・詰石は仕様書に定められた大きさのものが使用されている。 ・部材を固定・連結するボルト等にゆるみが無い。 【木製枠】 ・産地証明等で県産材であることが確認できる。 ・各枠が所定の位置に適切に組み立てられている。 ・枠の組み方が適正で、変形、法狂い無く立ち上がっている。 ・水平・垂直方向の接続が適切で法線どおり狂いなく設置されている。 ・詰石作業が枠材に衝撃を与えないよう注意を払って行われている。 ・詰石が隙間なく適切に施工されている。 ・詰石が仕様書に定められた大きさと施工されている。 【フトン籠】 ・各籠が所定の位置に適切に設置されている。 ・水平・垂直方向の接続が適切で法線どおり狂いなく設置されている。 ・詰石が仕様書に定められた大きさと施工されている。 ・詰石により籠が変形しておらず、口締めの際に鉄筋は良くねじれ強く締められている。 ①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値（評価値）で評価す ③評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④なお、削除後の評価対象項目数が３項目以下の場合はC評価とする。					・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば…… d	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が文書で補修（手直し）指示を行った。 上記該当あれば…… e

		ばらつきで判断可能			ばらつき で判断不 可能
		ばらつきが小さい	ばらついている	ばらつきが大きい	
		50%以下	80%以下	80%超え	
評価 値	90%以上	a	a'	b	b
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'
	60%以上75%未満	b	b'	C	C
	60%未満	b'	C	C	C

注 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

工事成績採点の審査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

(検査職員)

審査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e																												
3 出来形 及び 出来ばえ	水路工 暗きょ工	☆ 品質関係の試験結果のばらつきと、評価値から判断する（判断基準参照） {関連基準、林業土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験} ※ばらつきの判定基準は別紙－4参照 ☆ 品質が試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。																												
		<p>【評価対象項目】</p> <p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none">• 材料の品質規定証明書が整備されている。• J I S規格外品について、仕様書の規定する規格、品質を満足している。• 基礎地盤の整形、清掃、湧水処理等が適切に実施されていることが確認できる。• 二次製品の保管、吊り込み、据え付け等に十分注意を払っていることが確認できる。• 二次製品の受け取りを現場代理人などの責任ある者が、製品を確認し受け取り、損傷のないもので施工されている。• 施工基面は、平滑で所定の強度が確保されている。（据え付け後に不等沈下で波打っていないこと）• J I S製品について、J I Sマーク表示が写真で確認できる。 <p>【水路工】</p> <ul style="list-style-type: none">• 位置、方向、高さ、勾配等について前後の施設又は地形になじみよく施工されている。• 不等沈下防止に配慮して、基礎工の締め固めが特に入念に行われている。• 呑口、吐口、集水桝等の取り付けコンクリートにクラック等の欠陥が無い。• 施設の流末は浸食、滞留等が生じないよう処理されている。• 不等沈下の発生がなく、基礎コンクリートの亀裂や縦目地からの漏水も見られない。• 縦目地の目地モルタルが適切に施工されている。• 製品周辺の盛土、埋戻土の施工にあたり、巻出し、転圧が適切に施工されている。• 製品の目地に隙間、ズレがなく、適切に施工されている。• 水路周辺斜面に滞水や流水がなく、水処理が適切に行われている。• 水路脇の埋戻しが的確に行われ、地表水が水路に流入する形状に仕上がっており、水路脇の侵食のおそれが無い。 <p>【暗きょ工】</p> <ul style="list-style-type: none">• 中心線の通りが良い。• フィルター材は仕様書どおりに施工されている。• 地盤面、基盤面に不陸が生じていないことが確認できる。• 合流、分流の接合部では、適切な施工が実施されている。• 接合部の処理が仕様書どおりに適正に実施されている。 <p>①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値（評価値）で評価す ③評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合はC評価とする。</p> <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">ばらつきで判断可能</th><th rowspan="2">ばらつきで判断不可能</th></tr><tr><th>ばらつきが小さい 50%以下</th><th>ばらついている 80%以下</th><th>ばらつきが大きい 80%超え</th></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>C</td><td>C</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>C</td><td>C</td><td>C</td></tr></table>							ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能	ばらつきが小さい 50%以下	ばらついている 80%以下	ばらつきが大きい 80%超え	評価値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上75%未満	b	b'	C	C	60%未満	b'	C	C	C
		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																															
		ばらつきが小さい 50%以下	ばらついている 80%以下	ばらつきが大きい 80%超え																																
評価値	90%以上	a	a'	b	b																															
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'																															
	60%以上75%未満	b	b'	C	C																															
	60%未満	b'	C	C	C																															
Ⅱ 品 質 2 山 腹 工 事		注 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。																																		

工事成績採点の審査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

(検 査 職 員)

審査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3 出来形 及び 出来ばえ	Ⅱ 品 質 2 山 腹 工 事	☆ 品質関係の試験結果のばらつきと、評価値から判断する（判断基準参照） （関連基準、林業土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験） ※ばらつきの判定基準は別紙－4参照 ☆ 品質が試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
		【評価対象項目】 【共通】 ・施工基面が平滑に仕上げられている。 ・湧水、地表水が適切に処理されている。 【法切工】 ・雨水による崩壊が起きないように、排水対策を実施している。 ・法面に有害なクラックや損傷がない。 ・工事発生土の再利用が積極的に行われ、現場での放置が無く、適切に処理されている。 ・切取法面において落石等の危険が無いようにゆるんだ転石、岩塊等が除去されている。 【植生シート・種子付むしろ】 ・種子の品質が適正なことが書類等で確認できる。 ・シート・むしろ等が所定の方法で地山に密着して固定されており、端部の処理も適切である。 ・シート・むしろ等が隙間なく確実に敷設されている。 【柵工（木製パネル等）】 ・産地証明等で県産材であることが確認できる。 ・水平にとおり良く設置されている。 ・山側は柵の天端まで突き固め、埋め戻されている。 ・谷側の木製パネル部分が設計どおり埋め戻されている。 ①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値（評価値）で評価す ③評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合はC評価とする。					・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば……d	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が文書で補修（手直し）指示を行った。 上記該当あれば……e

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		ばらつきが小さい	ばらついている	ばらつきが大きい	
評価値	90%以上	a	a'	b	b
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'
	60%以上75%未満	b	b'	C	C
	60%未満	b'	C	C	C

注 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

工事成績採点の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

(検査職員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e																																			
3 出来形 及び 出来ばえ	落石防止工	☆ 品質関係の試験結果のばらつきと、評価値から判断する（判断基準参照） 〔関連基準、林業土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験〕 ※ばらつきの判定基準は別紙－4参照 ☆ 品質が試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。																																			
		【評価対象項目】 【共通】 ・施工基面を乱さないよう施工されている。 ・湧水、地表水が適切に処理されている。 ・材料の品質規格証明書等が整備されている。 【落石予防工】 ・金網の設置にあたり法面への固定方法が適切である。 ・金網・ネット等が施工計画書のとおり施工され、仕上げ面から適正な間隔を保ち固定されている。 ・金網の設置において、隣り合う金網は30cm（20cm以上）重ねて施工されていることが確認できる。 ・アンカーが確実に固定されていることが確認できる。 ・アンカーの耐力確認として、架設現場において、耐力テストを行い実際の耐力を確認している。 ・アンカー、支柱、ピンボルト、金網等の保管管理が適正である。 【落石防護工】 ・設置位置、設置の方向などが適正に施工されている。 ・基礎が地山となじみよく施工されている。 ・ワイヤ式の防護工の場合は、張力にゆりみが無いことが確認できる。 ①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値（評価値）で評価す ③評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合はC評価とする。					・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば……d	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が文書で補修（手直し）指示を行った。 上記該当あれば……e																																			
Ⅱ 品 質 2 山 腹 工 事		<table><tr><th rowspan="3"></th><th rowspan="3"></th><th colspan="3">ばらつきで判断可能</th><th rowspan="3">ばらつき で判断不 可能</th></tr><tr><th>ばらつきが小さい</th><th>ばらついている</th><th>ばらつきが大きい</th></tr><tr><th>50%以下</th><th>80%以下</th><th>80%超え</th></tr><tr><td rowspan="4">評 価 値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>C</td><td>C</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>C</td><td>C</td><td>C</td></tr></table>							ばらつきで判断可能			ばらつき で判断不 可能	ばらつきが小さい	ばらついている	ばらつきが大きい	50%以下	80%以下	80%超え	評 価 値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上75%未満	b	b'	C	C	60%未満	b'	C	C	C	注 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。			
		ばらつきで判断可能			ばらつき で判断不 可能																																						
		ばらつきが小さい	ばらついている	ばらつきが大きい																																							
		50%以下	80%以下	80%超え																																							
評 価 値	90%以上	a	a'	b	b																																						
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'																																						
	60%以上75%未満	b	b'	C	C																																						
	60%未満	b'	C	C	C																																						

工事成績採点の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

(検査職員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3 出来形 及び 出来ばえ		☆ 品質関係の試験結果のばらつきと、評価値から判断する（判断基準参照） （関連基準、林業土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験） ※ばらつきの判定基準は別紙－4参照 ☆ 品質が試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
II 品 質 3 地 す べ り 防 止 工 事	集水井工 杭工 暗きょ工	〔評価対象項目〕 【共通】 ・材料の品質規定証明書が整備されている。 【集水井工（ライナープレート工法）】 ・地すべり状況を把握し、掘削中の地盤構造、湧水の記録が整備されている。 ・ライナープレート等の組立にあたり、偏心と歪みに配慮し、施工を行っている。 ・ライナープレート等と地山との隙間が少なくなるように施工を行っている。 ・ライナープレート等を確実に固定できるように掘削が入念に施工され、ライナープレート端に触れることなく、鉛直方向に正確に施工されていることが確認できる。 ・ライナープレート等が仕様書に示す深さごとに1枚ずつ実施されていることが確認できる。 ・ライナープレート等の接続（ボルトと締付）が仕様書に示すとおりに実施されている。 【集水井工（自重沈下工法・セグメント工法）】 ・地すべり状況を把握し、掘削中の地盤構造、湧水の記録が整備されている。 ・発進工の基本となる井筒発進工の底面は、水平かつ平坦に仕上げられている。 ・ブロックの組み立てにあたり、製品仕様のとおりボルト締めが確実に施工されている。 ・掘削作業にあたり、不等沈下による傾きを防止するため、中心部から外側に掘り進み、掘りすぎないように注意して施工されている。 ・偏心に配慮し、水平・鉛直に対する施工管理を常に行っている。 ・沈下作業にあたり、地山との摩擦力を軽減するための沈下砂利が均一に回るように施工されている。 ・縦方向接合鉄筋を挿入する際に鉄筋の所定ラップ長が取れているか確認できる。 ・縦方向接合鉄筋挿入孔に充填するセメントミルク施工に際し、所定の規格を満足しているか確認できる。 ・井筒頭部に施工する固定コンクリートについて、水平かつ平坦に施工されている。 【鋼管杭】 ・杭に損傷及び補修痕がないことを確認できる。 ・既製杭の打ち止めの管理方法、又は場所打ち杭の施工管理方法が整理され、かつ、記録で確認できる。 ・杭の偏心管理が確認できる。 ・溶接の品質管理に関して、仕様書等に定められた事項が確認できる。 ・杭の継ぎ手溶接、あるいは接続が丁寧に施工されていることが確認できる。 ・グラウト及び中詰コンクリートが、丁寧に施工されていることが確認できる。 ・グラウトの泥水処理において、的確に施工されていることが確認できる。 【横孔・集水・排水ボーリング】 ・孔口間隔が正確であり、孔口の接続が丁寧に仕上げられている。 ・保孔管のストレーナー加工が適切であることが確認できる。 ・孔口部の土砂崩壊防止、排水口の流末処理、侵食防止が適切に施工されている。 ・集・排水ボーリング工の方向、角度、及び長さが設計図書に示されたとおりに適正になるよう施工上の配慮がされている。 ・検尺について監督員の立合または、指示により確認されている。 ・保孔管が掘削全延長に挿入されていることが確認できる。					・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば……d	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が文書で補修（手直し）指示を行った。 上記該当あれば……e

Ⅱ 品 質
3 地すべり防止工事

集水井工
杭工
暗きょ工

- ①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。
 ②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値(評価値)で評価す
 ③評価値()=()%＝該当項目数()／評価対象項目数()
 ④なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合はC評価とする。

		ばらつきで判断可能			ばらつき で判断不 可能
		ばらつきが小さい	ばらついている	ばらつきが大きい	
		50%以下	80%以下	80%超え	
評 価 値	90%以上	a	a'	b	b
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'
	60%以上75%未満	b	b'	C	C
	60%未満	b'	C	C	C

注 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

工事成績採点の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

(検 査 職 員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3 出来形 及び 出来ばえ		☆ 品質関係の試験結果のばらつきと、評価値から判断する（判断基準参照） （関連基準、林業土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験） ※ばらつきの判定基準は別紙－4参照 ☆ 品質が試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
Ⅱ 品 質 4 林 道 工 事	土工事 路床・ 路盤工 土留等	【評価対象項目】 【共通】 ・施工基面が平滑に仕上げられている。 ・雨水による崩壊が起きないように、排水対策を実施している。 ・法面に有害なクラックや損傷が無い。 ・筋芝又は種子吹付等を適切に行っている。 ・材料の品質証明書が整理されている。 ・二次製品の受け取りを現場代理人などの責任ある者が、製品を確認し受け取り、損傷の無いもので施工されている。 ・建設発生土の再利用が積極的に行われ、現場での放置が無く、適切に処理されている。 【切土】 ・切取法面において落石等の危険がないようにゆるんだ転石、岩塊等が除去されている。 ・過掘りなどによる地盤の強度低下を招かないように施工している。 【盛土】 ・盛土施工前に段切りが適切に行われている。 ・締固めを適切な条件で施工している。（巻き出し厚が均一、均等な転圧） ・構造物周辺や狭い箇所は小型締固め機械により締め固め作業を行っている。 ・土羽工の土質が適正である。 ・軟弱地盤での盛土施工では、沈下量の測定が適正に実施されている。 【路床・路盤工・路床安定処理】 ・路床・路盤工のブルーローリングを行っており、沈下等の不具合があった場合は、良質の材料と入れ替えるなどの対策を行っている。 ・軟弱地盤など路床にとって不適なものに対し、対応策がとられている。 ・材料をおろす位置、方法及び材料の敷均しが適正な方法で行われ、材料分離していない。 ・路床・路盤工の密度管理が適切に行われている。 ・設計図書に基づき、所定の厚さ管理が行われ、かつ品質管理が実施されている。 ・構造物とのすり付けが適正に実施され、ゆるんだところが無い。 ・設計図書通りに施工され、水溜まりやキャタピラの跡等が無く、平坦に仕上がっている。 ・構造物周辺や狭い箇所は小型締固め機械により締め固め作業を行っている。 ・付属構造物との接合部など、路盤面にたわみが無い。 ・路盤材に不適な混合物の混入防止が図られ、混入のないことが確認できる。 ・路床・路盤が均一に仕上げられていることが確認できる。 ・固化材は、数量はじめ、安全性が確認できる品質証明が整理されている。 ・固化材の添加量とCBRの関係から目標とするCBRに対応する添加量を求めている。 ・㎡あたり又は1袋あたりの固化材の散布量が確認できる。 ・処理前の軟弱路床土は湿地ブルドーザーで所定の高さに整正している。 ・バケットクレーン、ライムスプレッダ、人力等で固化材を所定量均一に散布している。 ・散布及び混合に際して粉塵対策を施す必要がある場合は、防塵型の安定剤材を用いたり、シートの設置等の対策をとっている。 ・所定の深さまで混合攪拌したことが確認できる。（フェノール液で確認） ・グレーダー又はブルドーザー等で表面整正を行っている。 ・六価クロム溶脱に対する確認が実施され、本工事が実施されている。					・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば……d	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が文書で補修（手直し）指示を行った。 上記該当あれば……e

工事成績採点の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の・に○マークを記入する。		(検 査 職 員)						
考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3 出来形 及び 出来ばえ		☆ 品質関係の試験結果のばらつきと、評価値から判断する（判断基準参照） 〔関連基準、林業土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験〕 ※ばらつきの判定基準は別紙－４参照 ☆ 品質が試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
		【アスファルト舗装】 ・混合物の温度管理が、プラント出荷時・現場到着時・舗設時等で整理・記録されている。 ・気象条件に適した混合物の運搬方法、舗設作業（締め固め等）が行われている。 ・乳剤が均一に散布されており、飛散防止対策及び構造物への付着防止にも細心の注意が払われている。 ・アスカーブが丁寧に施工され通りが良い。 ・路肩処理、縁端処理が細やかに配慮され、適切に施工されている。 ・舗装工の施工にあたって、上層路盤面の浮き石などの有害物を除去していることが確認できる。 ・密度管理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 【区画線】 ・施工時の気象条件を考慮し、施工がなされていることが確認できる。 ・施工前に路面を清掃した上で、乾燥後に施工されている。 【コンクリート路面工】 ・コンクリート打ち込み時に必要な供試体を採取し、強度、スランプ・空気量等が確認できる。 ・施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打ち込み時の投入高さ、バイブレーターによる締固、養生方法等、適切に行っている。（寒中及び暑中コンクリート等を含む） ・コンクリートの現場養生用の供試体が当該現場のものであることが確認できる。 ・コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。 （高炉Ｂ種・Ｃ種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する） ・コンクリート舗装の表面は粗面仕上げで、平坦、緻密、堅硬となっている。 ・目地の隣り合わせの舗装面に段差が無い。 ・舗装工の施工にあたって、上層路盤面の浮き石などの有害物を除去していることが確認できる。 ・材料が分離しないようコンクリートを敷均していることが確認できる。 【排水施設工（横断工、側溝等）】 ・位置、方向、高さ、勾配等について前後の施設又は地形になじみよく施工されている。 ・施設の流末は浸食、滞留等が生じないように処理されている。 【交通安全施設工】 ・製品に損傷、キズ、へこみなどがないことが確認できる。 ・支柱は垂直に立ち、規格とおりの高さに設置され、道路の路側構造物との位置関係が図られている。 ・支柱とレール、及びロープにゆがみが無い。 ・支柱を打ち込む場合は、地盤をゆるめないように注意して施工され、また穴を掘って立て込む場合は、十分に突き固めて埋め戻しされている。 ・支柱を支える基礎は、規格どおりにできあがり、高さ、位置は設計図書に適合することが確認できる。 ・支柱基礎の床掘り仕上がり面において、地山の乱れや不陸が生じないように施工していることが確認できる。 ・ガードケーブルを支柱に取り付ける場合、設計図書に定められた所定の張力を与えているのが確認できる。 ・ガードケーブルの端末支柱を土中に設置する場合、打ち込んだコンクリートが設計図書に定められた強度以上であることが確認できる。					・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば…… d	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が文書で補修（手直し）指示を行った。 上記該当あれば…… e
Ⅱ 品 質 4 林 道 工 事	土工事 路床・ 路盤工 土留等							

土工事
路床・
路盤工
土留等

- 【土留（大型フトン籠・フトン籠等）】
- ・埋戻しが十分締め固められており、天端に確実にすり付けられ吸出しを受けていない。
 - ・水平・垂直方向の接続が適切で法線どおり狂いなく設置されている。
 - ・仕様書に定められた大きさの中詰石を用い隙間なく適切に施工されている。

- 【土留（パネル柵等）】
- ・産地証明等で県産材であることが確認できる。
 - ・通り良く設置されている。
 - ・山側はパネル等の天端まで埋め戻されている。

- ①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。
②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値（評価値）で評価する。
③評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ）
④なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合はC評価とする。

		ばらつきで判断可能			ばらつき で判断不 可能
		ばらつきが小さい	ばらついている	ばらつきが大きい	
		50%以下	80%以下	80%超え	
評 価 値	90%以上	a	a'	b	b
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'
	60%以上75%未満	b	b'	C	C
	60%未満	b'	C	C	C

注 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

工事成績採点の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

(検 査 職 員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3 出来形 及び 出来ばえ		☆ 品質関係の試験結果のばらつきと、評価値から判断する（判断基準参照） 【関連基準、林業土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験】 ※ばらつきの判定基準は別紙－４参照 ☆ 品質が試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
Ⅱ 品 質 4 林 道 工 事	擁壁工等	【評価対象項目】 【共通】 ・基礎地盤が確認され、適切に基盤面が仕上げられている。または、基礎栗石等が適切に施工されていることが確認できる。 ・掘削時に湧水処理等が適切に実施されていることが確認できる。 ・埋戻しが十分締め固められており、天端に確実にすり付けられ吸出しを受けていない。 ・材料の品質規定証明書が整備されている。 【コンクリート】 ・コンクリート打ち込み時に必要な供試体を採取し、強度、スランプ・空気量等が確認できる。 ・施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打ち込み時の投入高さ、バイブレーターによる締固、養生方法等、適切に行っていることが確認できる。（寒中及び暑中コンクリート等を含む） ・型枠、支保工の組立が適正で、コンクリート打ち込み後、取り外し時期がコンクリート強度等で適正に管理されている。 ・コンクリートの打ち直しや補修の痕跡が無い。 ・コンクリート打ち込み時に雨水やわき水が適切に処理されていることが確認できる。 ・施工の打ち継ぎ目では、レイタンス処理等が適切に行われていることが確認できる。 ・型枠の目違いがなく、型枠の破片等がコンクリート表面になく、丁寧な仕上りが確認できる。 ・コンクリート打ち込みにおいて、初期強度管理に細心の配慮がうかがえる。 ・打ち継ぎ目にモルタル施工が実施されていることが確認できる。 ・目地材の表面露出部分が均一に出るように施工されている。 ・目地材はよじれなく直線的に仕上がっている。 ・リフトスケジュールが作成され、コンクリート打ち込み時期・養生が適切に行われている。 ・コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。 （高炉Ｂ種、Ｃ種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する） ・コンクリート打ち込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。 ・有害なクラックが無い。 【Ｌ型プレキャスト】 ・基礎との密着が図られ、接合面に食い違いが見られない。 ・個々の製品が設計どおり設置され、壁面の通りが良い。 ・端部における地山とのすりつけが適切である。 ・二次製品の受け取りを現場代理人などの責任ある者が、製品を確認し受け取り、損傷の無いもので施工されている。 ・二次製品の保管、吊り込み、据え付け等に十分注意が払われ、割れ、傷が無い。 ・ＪＩＳ製品について、ＪＩＳマーク表示が写真で確認できる。 【コンクリートブロック】 ・胴込コンクリート、裏込材の充填が十分で空隙が生じていない。 ・基礎コンクリート及び天端等の調整コンクリートにクラック等の欠陥が無い。 ・材料の連結、またはかみ合わせが適切で法狂いなく仕上がっている。 ・端部における地山とのすりつけが適切である。 ・ＪＩＳ製品について、ＪＩＳマーク表示が写真で確認できる。					・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば……d	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が文書で補修（手直し）指示を行った。 上記該当あれば……e

擁壁工等

【補強土工】

- ・基礎が沈下しないように十分な強度があるかが確認されて作業がされている。
- ・盛土仕上がりが変形やはらみのない状態で完成している。
- ・補強材の施工にすれ、歪み、はらみ、損傷が無いことが確認できる。
- ・盛土の締固を適切な条件（人力機械別、巻出し厚、敷き均し、転圧作業等）で施工されている。
- ・プレキャスト製品・材料等の品質が工場管理資料により適正であることが確認できる。
- ・現場条件に応じた排水対策が施工時を含め適切に講じられている。
- ・盛土の締固め管理（密度等）が適切に実施されていることが確認できる。
- ・構造物となじみ良く施工されており、排水処理も適切に実施されている。

①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。

②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値（評価値）で評価す

③評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ）

④なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合はC評価とする。

		ばらつきで判断可能			ばらつき で判断不 可能
		ばらつきが小さい	ばらついている	ばらつきが大きい	
		50%以下	80%以下	80%超え	
評 価 値	90%以上	a	a'	b	b
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'
	60%以上75%未満	b	b'	C	C
	60%未満	b'	C	C	C

注 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

工事成績採点の審査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

(検 査 職 員)

審査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e																													
3 出来形 及び 出来ばえ		☆ 品質関係の試験結果のばらつきと、評価値から判断する（判断基準参照） 【関連基準、林業土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験】 ※ばらつきの判定基準は別紙－4 参照 ☆ 品質が試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。																													
	Ⅱ 品 質 4 林 道 工 事	コンクリート橋工事 (PC及びRC を対象)	【評価対象項目】 【共通】 ・コンクリート打ち込み時に必要な供試体を採取し、強度、スランプ・空気量等が確認できる。 ・施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打ち込み時の投入高さ、パイプレーターによる締固、養生方法等、適切に行っている。（寒中及び暑中コンクリート等を含む） ・型枠、支保工の組立が適正で、コンクリート打ち込み後、取り外し時期がコンクリート強度等で適正に管理されている。 ・鉄筋の規格・引張強度・曲げ強度の試験値をミルシート等で確認できる。 ・コンクリート打ち込みまでの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できる。 ・スパーサーを適切に配置し、鉄筋のかぶりを確保している。 ・鉄筋圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。 ・鉄筋の組立・加工が適切であることが確認できる。 ・鉄筋の重ね合わせ長が、設計図書どおりであることが確認できる。 ・コンクリート打ち込み時に雨水やわき水が適切に処理されている。 ・コンクリートの現場養生用の供試体が当該現場のものであることが確認できる。 ・コンクリートの打ち直しや補修の痕跡が無い。 ・施工の打ち継ぎ目では、コンクリート打ち込み前の清掃等が適切に行われている。 ・コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。（高炉B種、C種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する） ・コンクリート打ち込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。 ・有害なクラックが無い。 【製作関係】 ・製品の員数をはじめ規格の照合がミルシート等（現場照合を含む）で確認できる。 ・作業実施前に装置（機器）のキャリブレーションが実施されている。 ・スパーサーの材料が適正で、品質が確認できる。 ・プレビーム桁はプレフレクションで適正に実施されている。 ・緊張及びグラウト管理が適切に管理されている。 ・プレストレッシング時のコンクリート強度が最大圧縮応力度の1.7倍以上であることが確認できる。 【架設関係】 ・支承の据付で、コンクリート面のチップング及びモルタルでの付着が確認でき、仕上げ面に水切り勾配がついている。 ①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%) 計算の値（評価値）で評価する。 ③評価値（ % ）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合はC評価とする。					・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば……d	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が文書で補修（手直し）指示を行った。 上記該当あれば……e																												
<table><tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2"></th><th colspan="3">ばらつきで判断可能</th><th rowspan="2">ばらつきで判断不可能</th></tr><tr><th>ばらつきが小さい 50%以下</th><th>ばらついている 80%以下</th><th>ばらつきが大きい 80%超え</th></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>C</td><td>C</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>C</td><td>C</td><td>C</td></tr></table>							ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能	ばらつきが小さい 50%以下	ばらついている 80%以下	ばらつきが大きい 80%超え	評価値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上75%未満	b	b'	C	C	60%未満	b'	C	C	C			
		ばらつきで判断可能					ばらつきで判断不可能																														
		ばらつきが小さい 50%以下	ばらついている 80%以下	ばらつきが大きい 80%超え																																	
評価値	90%以上	a	a'	b	b																																
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'																																
	60%以上75%未満	b	b'	C	C																																
	60%未満	b'	C	C	C																																
注 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。																																					

工事成績採点の審査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

(検査職員)

審査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e																								
3 出来形 及び 出来ばえ	鋼橋工事	☆ 品質関係の試験結果のばらつきと、評価値から判断する（判断基準参照） {関連基準、林業土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験} ※ばらつきの判定基準は別紙－4 参照 ☆ 品質が試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。																								
		<p>【評価対象項目】</p> <p>【工場製作関係】</p> <ul style="list-style-type: none">鋼材の員数照合がミルシート等（現物照合を含む）で確認されている。塗装する面が乾燥状態であることが確認できる。素地調整の場合、第1種ケレン後4時間以内に金属前処理塗装を実施していることが確認できる。塗料の空缶管理が、写真等で確実に空であることが確認できる。塗料の品質が出荷証明書、塗料証明書で確認できる。塗装前の処理が適切に実施されていることが確認できる。仕様書に定められた制限内の気温、湿度の条件下で塗装を行っていることが確認できる。溶接作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。放射性透過試験又は超音波探傷試験により溶接箇所の試験結果報告書が作成され、適正に実施されたことが確認できる。キャンバーが規格どおりに確保されている。溶接作業にあたり、溶接材料の使用区分が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。溶接施工に係る施工計画書を提出していることが確認できる。孔空けによって生じたまくれが削り取られているなど、きめ細やかに製作していることが確認できる。欠陥部の発生が見られないことが確認できる。 <p>【架設関係】</p> <ul style="list-style-type: none">ボルトの締付確認が実施され、適切に記録が保管されている。ボルトの締付機、測定機器のキャリブレーションを実施している。支承の据付で、コンクリート面のチッピング及びモルタル付着が確認でき、仕上げ面に水切り勾配がついている。ボルトの品質がミルシート等で確認できる。架設の結果、塗装面を損傷していない。現場塗装で塗り残し、むら等が無い。鋼材の保管にあたり変形及び塗装面に損傷を与えないように適切に管理されている。トルシアボルトの締め付け完了がピンテールの破断により、目視によって確認できる。支承製品の品質が証明書等で確認できる。高力ボルトの締め付けを、中心から外側に向かって行っていることが確認できる。架設にあたって、部材の応力と変形等を十分検討していることが確認できる。架設に用いる仮設備及び架設用機材について品質、性能が確保できる規模及び強度を有して確認していることが確認できる。現場塗装部のケレン及び膜厚管理を適切に行っていることが確認できる。現場塗装において、温度、湿度、風速等の確認を行っていることが確認できる。 <p>①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値（評価値）で評価す ③評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合はC評価とする。</p> <table><tr><td rowspan="5">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td></tr><tr><td>75%以上90%未満</td><td>a</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>C</td><td>C</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>C</td><td>C</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					評価値	90%以上	a	a'	b	b'	75%以上90%未満	a	b	b'	b'	60%以上75%未満	b	b'	C	C	60%未満	b'	C	C	C					
評価値	90%以上	a	a'	b	b'																											
	75%以上90%未満	a	b	b'	b'																											
	60%以上75%未満	b	b'	C	C																											
	60%未満	b'	C	C	C																											
Ⅱ 品 質 4 林 道 工 事																																
注 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。																																

工事成績採点の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

(検 査 職 員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3 出来形 及び 出来ばえ	II 品 質 5 法 面 工 事	☆ 品質関係の試験結果のばらつきと、評価値から判断する（判断基準参照） （関連基準、林業土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験） ※ばらつきの判定基準は別紙－４参照 ☆ 品質が試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
		【評価対象項目】 【共通】 ・施工基面が平滑に仕上げられている。 ・湧水、地表水の処理が適切で侵食、亀裂等が無い。 ・ラス張工は、地山に均等になじむように張られ、浮いているところのないように施工されている。 ・金網・ネット等が仕様書の通り施工され、仕上げ面から適正な間隔を保ち固定されている。 ・法肩の地山への巻き込みが適正に施工されている。 ・ネットの設置にあたり法面への固定方法が適切である。 ・地山表面の不純物の除去が確実に実施されている。 【種子吹付工、客土吹付工、厚層基材吹付工関係】 ・土壌状態を施工前に確認し、監督員に報告するなど適切な対応をとっている。 ・ネット等の重ね幅が１０ｃｍ以上確保されている。 ・吹付け厚さが均等である。 ・跳ね返り材料が適切に処理されている。 ・種子の品質が適正なことが書類等で確認できる。 ・施工時期が定められた条件を満足していることが確認できる。 【コンクリート又はモルタル吹付工関係】 ・使用する材料の種類、品質及び配合が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ・金網等の重ね幅が１０ｃｍ以上確保されている。 ・吸水性の吹付け面において、事前に吸水させてから施工していることが確認できる。 ・吹付け厚さが均等である。 ・跳ね返り材料が適切に処理されている。 ・法肩の吹付けにあたり、地山に沿って巻き込んで施工していることが確認できる。 ・金網が仕様書のとおり施工され、仕上げ面から適正な間隔を保ち固定されている。 ・金網等の設置にあたり、法面への固定方法が適切である。 ・水抜きパイプが適切に配置されている。 【現場打ち法枠工関係】 ・使用する材料の種類、品質及び配合が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ・アンカーの施工長さが確認できる。 ・現場養生が適切に行われていることが確認できる。 ・枠内に空隙が無いことが確認できる。 ・跳ね返り材料が適切に処理されている。 ・アンカーが確実に固定されている。					・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば……d	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が文書で補修（手直し）指示を行った。 上記該当あれば……e

法面保護工

- 【アンカー工】
- ボルトの締付確認が実施され、適切に管理されている。
 - ボルトの締め付け機、測定機器のキャリブレーションを実施している。
 - アンカー施工までの定着具、テンドン等の保管管理が適正である。
 - アンカー等の組み立て、加工が適正で損傷、汚れが無い。
 - グラウト注入のセメントミルクの品質、強度および充填確認が資料等により確認できる。
 - 削孔の位置、削孔長、方向について確認できる記録が管理されている。
 - 削孔内の洗浄が適切に施工され、スライムの除去が資料等で確認できる。
 - 設計アンカーの耐力確保のためにジャッキの試験成績表に基づき、定着荷重の資料が整備されている。
 - 材料・製品の品質・規格等がミルシート等により確認できる。

- ①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。
②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値（評価値）で評価す
③評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ）
④なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合はC評価とする。

		ばらつきで判断可能			ばらつき で判断不 可能
		ばらつきが小さい	ばらついている	ばらつきが大きい	
		50%以下	80%以下	80%超え	
評 価 値	90%以上	a	a'	b	b
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'
	60%以上75%未満	b	b'	C	C
	60%未満	b'	C	C	C

注 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

工事成績採点の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

(検 査 職 員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3 出来形 及び 出来ばえ		☆ 品質関係の試験結果のばらつきと、評価値から判断する（判断基準参照） （関連基準、林業土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験） ※ばらつきの判定基準は別紙－４参照 ☆ 品質が試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。
		【評価対象項目】 【共通】 ・コンクリート打ち込み時に必要な供試体を採取し、強度、スランプ・空気量等が確認できる。 ・施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打ち込み時の投入高さ、パイプレータによる締固、養生方法等、適切に行っている。（寒中及び暑中コンクリート等を含む） ・型枠、支保工の組立が適正で、コンクリート打ち込み後、取り外し時期がコンクリート強度等で適正に管理されている。 ・コンクリートの打ち直しや補修の痕跡が無い。 ・コンクリート打ち込み時に雨水やわき水等が適切に処理されていることが確認できる。 ・コンクリートの現場養生用の供試体が当該現場のものであることが確認できる。 ・コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。（高炉Ｂ種、Ｃ種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する。） ・コンクリート打ち込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。 ・施工基面が平坦に仕上げられている。 ・材料の規格・品質が試験成績表等で確認できる。 ・海岸部に保管する型枠のセパレート、組立の鉄筋等は、錆防止対策を行っている。 ・濁り防止等環境保全に十分注意して施工していることが確認できる。 ・有害なクラックが無い。 【コンクリートブロック・異形ブロック】 ・コンクリートブロックの転置、仮置に際し、強度確認を行っている。 ・コンクリートブロックの仮置きで転倒、崩壊等のおそれが無い。 ・設置されたブロックに破損や補修痕の無いことが確認できる。 ・砂地や岩盤への根入れが適正で、不等沈下や背後土砂のバイピング等が無い。 ・上部構造物の継ぎ目から背後土砂の流出がないことが確認できる。 ・異形ブロック等を現場で製作のものは、型枠搬入時に仮組等を実施し、寸法・歪み・傷等をチェックしている。 ・異形ブロックの製作で豆板、かけ、型枠の目違いが無い。 ・乱積でコンクリートブロック相互のかみ合わせがよく、孤立したブロックがないことが確認できる。 【コンクリート直立堤】 ・施工の打ち継ぎ目では、位置が適正で、コンクリート打ち込み前の清掃等が適切に行われている。 ・施工の打ち継ぎ目では、レイタンス処理等が適切に行われていることが確認できる。 ・型枠の目違いがなく、型枠の破片等がコンクリート表面に無く、丁寧な仕上がりが確認できる。 ・打ち継ぎ目にモルタル施工が実施されていることが確認できる。 ・目地材の表面露出部分が均一に出るように施工されている。 ・目地材はよじれなく直線的に仕上がっている。 ・コンクリート打ち込みまでの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できる。 ・鉄筋の組立・加工が適切であることが確認できる。 ・スパーサーを適切に配置し、鉄筋のかぶりを確保している。 ・鉄筋の規格・引張強度・曲げ強度の試験値をミルシート等で確認できる。					・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば…… d	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が文書で補修（手直し）指示を行った。 上記該当あれば…… e
Ⅱ 品 質 6 海 岸 工 事	防潮工 (緩傾斜堤 直立堤 コンクリート ブロック堤)							

防潮工
(緩傾斜堤
直立堤
コンクリート
ブロック堤)

- 【中詰、被覆などの基礎工】
- 中詰めに使用する石の計量が適切であることが確認できる。
 - 基礎工は、大小の石でかみ合わせ良く、均し面にゆるみがないよう施工されていることが確認できる。
 - 基礎に敷設する帆布等の破れが無く、所定の重ねが写真記録等により確認できる。
 - 捨て石基礎の均し面が平坦に仕上げられていることが確認できる。
- ①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。
②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値(評価値)で評価す
③評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()
④なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合はC評価とする。

		ばらつきで判断可能			ばらつき で判断不 可能
		ばらつきが小さい	ばらついている	ばらつきが大きい	
		50%以下	80%以下	80%超え	
評 価 値	90%以上	a	a'	b	b
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'
	60%以上75%未満	b	b'	C	C
	60%未満	b'	C	C	C

注 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

(検査職員)

(検査職員)

検査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e																																		
3 出来形 及び 出来ばえ		☆ 品質関係の試験結果のばらつきと、評価値から判断する（判断基準参照） 〔関連基準、林業土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験〕 ※ばらつきの判定基準は別紙－4 参照 ☆ 品質が試験項目、試験基準及び規格値を満足する。					品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。	品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。																																		
		【評価対象項目】 【共通】 ・法面に有害なクラックや損傷が無い。 【柵工】 ・製品の損傷、キズ、へこみ等が無いことが確認できる。 ・規格設計どおりの高さ、角度で設置されている。 ・部材を固定するボルト等にゆるみが無い。 ・支柱を支える基礎は、規格どおりにでき上がり、高さ、位置は設計図書に適合することが確認できる。 ・柵工の間隔等の施工位置が適正でとおりが良い。 【階段工】 ・切取法面が所定の勾配で施工され通りが良い。 ・法面に有害なクラックや損傷が無い。 ・施工基面が平滑に仕上げられている。 ・階段上の植栽については間隔など植栽位置が適切である。 ・植栽木に損傷、病虫害等がなく適切に保護養生されている。 ・工事発生土が掻き落とし等により適切に処理されている。 ①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値（評価値）で評価す ③評価値（ % ）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合はC評価とする。					・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば…… d	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が文書で補修（手直し）指示を行った。 上記該当あれば…… e																																		
Ⅱ 品 質 Ⅶ な だ れ 防 止 林 造 成 工 事	なだれ予防 柵工 階段工	<table><tr><th colspan="2" rowspan="3"></th><th colspan="3">ばらつきで判断可能</th><th rowspan="3">ばらつき で判断不 可能</th></tr><tr><th>ばらつきが小さい</th><th>ばらついている</th><th>ばらつきが大きい</th></tr><tr><th>50%以下</th><th>80%以下</th><th>80%超え</th></tr><tr><th rowspan="4">評 価 値</th><th>90%以上</th><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><th>75%以上90%未満</th><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><th>60%以上75%未満</th><td>b</td><td>b'</td><td>C</td><td>C</td></tr><tr><th>60%未満</th><td>b'</td><td>C</td><td>C</td><td>C</td></tr></table>							ばらつきで判断可能			ばらつき で判断不 可能	ばらつきが小さい	ばらついている	ばらつきが大きい	50%以下	80%以下	80%超え	評 価 値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上75%未満	b	b'	C	C	60%未満	b'	C	C	C	注 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。		
		ばらつきで判断可能			ばらつき で判断不 可能																																					
		ばらつきが小さい	ばらついている	ばらつきが大きい																																						
		50%以下	80%以下	80%超え																																						
評 価 値	90%以上	a	a'	b	b																																					
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'																																					
	60%以上75%未満	b	b'	C	C																																					
	60%未満	b'	C	C	C																																					

(検査職員)

(検査職員)

3出来形及び出来ばえ

Ⅱ品質8その他工事

工種

その他工事
(土木部の項目等を参考に評価する)

☆品質関係の試験結果のばらつきと、評価値から判断する(判断基準参照)
{関連基準、林業土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験}
※ばらつきの判定基準は別紙ー4参照
☆品質が試験項目、試験基準及び規格値を満足する。

【評価対象項目】

【工種名】

・

考査項目記述

(

)

・

考査項目記述

(

)

・

考査項目記述

(

)

・

考査項目記述

(

)

・

考査項目記述

(

)

①「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。

②評価対象外項目の削除後は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値(評価値)で評価す

③評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()

④なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合はC評価とする。

評価値	90%以上	a	a'	b	b
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'
	60%以上75%未満	b	b'	C	C
	60%未満	b'	C	C	C

注 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがあり、ばらつきが大きい。

・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。

上記該当あれば…… d

品質関係の試験結果が規格値、試験基準を満足せず、品質が劣る。

・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が文書で補修(手直し)指示を行った。

上記該当あれば……e

工事成績採点の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

(検 査 職 員)

考査項目	工 種	a	b	c	d
Ⅲ 出 来 ば え	3.出来形 及び 出来ばえ	・仕上げがきめ細かく、全体的に美観が良い。		・他の事項に該当しない。	・仕上げが悪く、全体的に美観が悪い。
	1.コンクリート工事	※該当6項目以上………… a 該当5項目以上………… b 該当4項目以上………… c 該当3項目以下………… d			
	治山ダム工 護岸工 流路工 土留工 防潮工等	・コンクリート構造物の肌が良い。 ・コンクリート構造物の通りが良い。 ・天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 ・クラックが無い。 ・埋戻しの締固・形状が良く、クラックや崩れが無い。 ・漏水が無い。 ・全体的な美観が良い。			
	2.枠組工等工事	※該当6項目以上………… a 該当5項目以上………… b 該当4項目以上………… c 該当3項目以下………… d			
	治山ダム工 護岸工 流路工 土留工 (鋼製枠、コンクリート枠・ 木製枠、大型フトン籠等)	・構造物の通りが良い。 ・端部仕上げが良い。 ・小構造物にも細心の注意が払われている。 ・埋戻しの締固・形状が良く、クラックや崩れが無い。 ・詰石が見ばえ良く並べられている。 ・材料の連結、かみ合わせが良い。 ・全体的な美観が良い。			
Ⅲ 出 来 ば え	3.コンクリート二次製品 等工事	※該当5項目以上………… a 該当4項目以上………… b 該当3項目以上………… c 該当2項目以下………… d			
	治山ダム工 護岸工 流路工 水路工 (コンクリートブロック、 鋼製ダム、異形ブロック、 ベンチフリューム等)	・構造物の通りが良い。 ・端部仕上げが良い。 ・小構造物にも細心の注意が払われている。 ・埋戻しの締固・形状が良く、クラックや崩れが無い。 ・材料の連結、かみ合わせが良い。 ・全体的な美観が良い。			
	4.地すべり工事	※該当3項目以上………… a 該当2項目以上………… b 該当1項目以上………… c 該当項目なし………… d			
Ⅲ 出 来 ば え	集水井工 杭工 集排水ボーリング工等	・地山と調和がとれた仕上げとなっている。 ・天端や端部の仕上げが良い。 ・施工管理記録から不可視部分の出来ばえの良さがうかがえる。 ・全体的な美観が良い。			
	5.林道工事	※該当7項目以上………… a 該当6項目以上………… b 該当5項目以上………… c 該当4項目以下………… d			
Ⅲ 出 来 ば え		・路面・路盤の平坦性が良い。 ・雨水処理が良い。 ・構造物の通りが良い。 ・端部処理が良い。 ・構造物へのすりつけ等が良い。 ・規定された切取勾配が確保されている。 ・法面の浮き石除去・木根等の表面処理が適切に施工されている。 ・残土等は適切に処理されている。 ・全体的な美観が良い。			

工事成績採点の審査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

(検 査 職 員)

審査項目	工 種	a	b	c	d
Ⅲ 出 来 ば え	3.出来形 及び 出来ばえ	・ 仕上げがきめ細かく、全体的に美観が良い。		・ 他の事項に該当しない。	・ 仕上げが悪く、全体的に美観が悪い。
	6.コンクリート橋工事	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンクリート構造物の肌が良い。 ・ コンクリート構造物の通りが良い。 ・ 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 ・ 支承部の仕上げが良い。 ・ クラックが無い。 ・ 漏水が無い。 ・ 全体的な美観が良い。 		※該当6項目以上………… a 該当5項目以上………… b 該当4項目以上………… c 該当3項目以下………… d	
	7.鋼橋工事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表面に補修箇所が無い。 ・ 部材表面に傷、錆が無い。 ・ 溶接に均一性がある。 ・ 塗装に均一性がある。 ・ 全体的な美観が良い。 		※該当4項目以上………… a 該当3項目以上………… b 該当2項目以上………… c 該当1項目以下………… d	
	8.法面工事 (アンカー工を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通りが良い。 ・ 法表面の浮き石や木根が除去されている。 ・ 植生、吹付け等の状態が均一である。 ・ 端部処理が良い。 ・ アンカーの方向が良く、アンカーとプレートに隙間が無い。 ・ 施工管理記録等から不可視部分の出来ばえの良さがうかがえる。 ・ 全体的な美観が良い。 		※該当6項目以上………… a 該当5項目以上………… b 該当4項目以上………… c 該当3項目以下………… d	
	9 なだれ予防柵工 落石予防工、落石防護工	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通りが良い。 ・ 端部処理が良い。 ・ 部材表面に傷、錆が無い。 ・ きめ細かな施工がされている。 ・ 全体的な美観が良い。 		※該当4項目以上………… a 該当3項目以上………… b 該当2項目以上………… c 該当1項目以下………… d	
	10 () 上記以外の工事 又は合併工事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審査項目記述 () ・ 審査項目記述 () ・ 審査項目記述 () ・ 審査項目記述 () ・ 審査項目記述 () ※該当工種からの審査事項で審査し、最大審査項目は5項目とする。		※該当4項目以上………… a 該当3項目以上………… b 該当2項目以上………… c 該当1項目以下………… d	

※ 上記工種以外に評価が必要な場合は、土木部出来ばえ工種項目を参考に評価する。また、審査項目から該当外として削除する場合は、評価基準を落として評価する。

工事成績採点の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の・に○マークを記入する。

(検 査 職 員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形及び品質		・写真書類管理が優れている。	・写真書類管理がやや優れている。	・他の事項に該当しない場合	・写真書類管理がやや不備である。	・写真書類管理が不備である。
I 写 真 書 類 整 理	森林整備	【評価対象項目】 【植栽】 ・作業前後の写真が同じ位置から撮られ、作業実施が明確に判断できる。 ・作業前後の写真が黒板を入れ、日付等が明確に確認できるように撮影されている。 ・地拵え、植穴堀、施肥など一連の作業手順が確認できるよう写真が整備されている。 ・植栽間隔、植穴寸法などが確認できる写真が整備されている。 ・苗木、肥料などの数量、規格などが確認できる写真が整備されている。 ・写真で苗木、肥料などの現地管理が適切に行われていることが確認できる。 ・写真撮影位置を明示した縮小平面図が添付されている（作業中写真等は除く）。 ・写真の撮影等に独自の工夫がされ資料として優れている。 【下刈】 ・作業前後（２回刈りは各回）の写真が同じ位置から撮られ、作業実施が明確に判断できる。 ・作業前後の写真が黒板を入れ、日付等が明確に確認できるように撮影されている。 ・作業前後の写真が施工地全体の確認ができるよう工夫して撮影されている。 ・作業状況写真で装備、作業方法など安全対策が適切に行われていることが確認できる。 ・写真撮影位置を明示した縮小平面図が添付されている。 ・写真の撮影等に独自の工夫がされ資料として優れている。 【本数調整伐、除伐】 ・ 伐採本数の３％ 以上、作業前後の写真がある。 ・上記写真の中心になる伐採木の番号が確認できるよう工夫して撮影されている。（本数管理の場合） ・同写真は周辺の広い範囲にわたる伐倒状況が確認できる配慮がされている。 ・作業前後の写真が同じ位置で撮られ、作業実施が明確に判断できる。 ・作業状況写真で装備、作業方法など安全対策が適切に行われていることが確認できる。 ・写真で伐倒木の処理状況が確認できる。 ・写真撮影位置を明示した縮小平面図が添付されている（作業中写真等は除く）。 ・写真の撮影等に独自の工夫がされ資料として優れている。 【枝落し】 ・ha当たり２箇所以上、作業前後の写真がある。（本数調整伐と兼ねた写真可） ・写真で枝下高が確認できるよう撮影されている。 ・広い範囲の作業終了が確認できるよう配慮し撮影されている。 ・切り落とした枝の切り口や切位置が確認できる写真が添付されている。 ・写真撮影位置を明示した縮小平面図が添付されている（作業中写真等は除く）。 ・写真の撮影等に独自の工夫がされ資料として優れている。			・重要な箇所の作業実施を確認できる写真等が整備されていない。 上記該当あれば…… d	・写真等が不備で大半の作業実施が確認できない。 上記該当あれば…… e

工事成績採点の審査項目別運用表

〔記入方法〕該当する項目の・に○マークを記入する。

(検査職員)

審査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形及び品質		・写真書類管理が優れている。	・写真書類管理がやや優れている。	・他の事項に該当しない場合	・写真書類管理がやや不備である。	・写真書類管理が不備である。
I 写 真 書 類 整 理	森林整備	<div>【雪起し】</div> <ul style="list-style-type: none">・ha当たり2箇所以上、作業前後の写真がある。・作業前写真は被害程度が判るよう撮影され、作業後写真は縄で引き起こした本数率が設計以上と判断で写真となっている。・同写真は広い範囲の作業終了が確認できるよう配慮し撮影されている。・材料写真で縄が設計された数量購入されたことが確認できる。・写真撮影位置を明示した縮小平面図が添付されている（作業中写真等は除く）。・写真の撮影等に独自の工夫がされ資料として優れている。 <div>【つる切り】</div> <ul style="list-style-type: none">・ha当たり2箇所以上、作業前後の写真がある。・作業前写真は被害程度が判るよう撮影され、作業後写真はつるが除去されたことが確認できるよう撮影している。・同写真は広い範囲の作業終了が確認できるよう配慮し撮影されている。・写真の撮影等に独自の工夫がされ資料として優れている。 <div>【追肥・根踏】</div> <ul style="list-style-type: none">・作業地全体が確認できる写真がある。・ha当たり2箇所以上、作業前後の写真がある。・作業中写真で作業手順や作業実施が明確に把握できるよう工夫されている。・材料写真で肥料が設計された数量購入されたことが確認できる。・写真の撮影等に独自の工夫がされ資料として優れている。 <div>【その他 簡易な構造物】〈堆砂工、防風工、静砂工、作業車道、作業歩道など〉</div> <ul style="list-style-type: none">・作業前後の写真が全体を確認できるよう工夫して撮影されている。・作業中写真が施工の過程が明確に確認できるよう工夫されている。・材料写真で資材が設計の規格、数量で現場に搬入されたか確認できる。・設計どおりの形状（垣高、垣間隔、延長、高さ、幅など）で施工されていることが写真で確認できる。・作業中写真で作業手順や作業実施が明確に把握できるよう工夫されている。・写真撮影位置を明示した縮小平面図が添付されている（作業中写真等は除く）。・写真の撮影等に独自の工夫がされ資料として優れている。			<div>・重要な箇所の作業実施を確認できる写真等が整備されていない。</div> <div>上記該当あれば……d</div>	<div>・写真等が不備で大半の作業実施が確認できない。</div> <div>上記該当あれば……e</div>
		<div>【評価方法】</div> <div>①当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。――○○○</div> <div>②削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率で評価する。</div> <div>③評価するもの ○ 評価できないもの ×</div> <div>④評価値（％）＝評価数／対象評価項目数＝ ○／（○＋×）</div>				
		<div>●評価基準</div> <div>評価値が90％以上……………a</div> <div>評価値が70％以上～90％未満 ……b</div> <div>評価値が50％以上～70％未満 ……c</div> <div>評価値が50％未満……………d</div>				